



人は往々にして、いかにして自分が今存在しているのか、人生の目的とは何なのか、あるいはなぜ人が死に、その には何が待ち受けているのか、と考えるものです。人は自分自身と宇宙全体が存在する理由、そして存在し ける理由に して疑 を投げかけなければなりません。その 程においては、あらゆる束 や偏 を てる必要があります。

自分の意 の中から全ての社会的、心理的、概念的な を切り して思考することにより、人はやがて自らを含む全宇宙が至高の力によって られたことに 付くはずです。たとえ自分自身の身体、あるいは自然界のいかなるものを考察したのであれ、その中には 的 な 和、 、そして 智が潜んでいることが分かるでしょう。

この点に しても、クルア ンは人を きます。神はクルア ンの中で、私たちが何に して熟考 すべきかを き出します。クルア ンによって示される方法で熟考することにより、神への信仰を持つ人物は、神の完全性、果てしない 智、そしてかれの 造における知 と力をより良く理解します。信仰を持つ人物がクルア ンによって教えられている通りに考えると、彼は全宇宙が神の力によるもの、そしてかれの芸 であることを理解し、また “自然界とは芸 による 果であり、芸 家そのものではない” ことが分かるのです。あらゆる芸 作品は、その作者の卓越した技量を表し、そのメッセ ジを えているのです。

クルア ンは人 全体に、神の存在、独自性、そしてかれの性 を明 に 言する数々の出来事 や についての熟考を促します。言をするそれら全ての存在は“しるし”つまり“された 、 的知 、真 の表象”としてクルア ンで示されています。それゆえ、全宇宙の物 は神の存在と性 をあらわにして する、神のしるしであると言えるでしょう。 察し想起する人は、全宇宙の全てが神のしるしによって 成されていることを知るので。

そしてこれこそが、人 の 任なのです。つまり、神のしるしを感じ取ることです。そうすることが出来るのであれば、自分を含むあらゆるものの 造主を知ることができ、かれに近づき、自らの存在と人生の意 を し、成功を めることができるのです。

人の呼吸、政治 社会の 展、宇宙の 和、そして原子という物 の最小 位に至るまで、ありとあらゆるものは神のしるしであり、それら全てはかれの制御と知 のもと、かれの法



この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/49>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。